

函館生涯学習インストラクターの会

情 報 誌 平成24年度(第4号) 7月31日発行

会 長 島貫 徹彦

編集責任者 浜田 愼

☆ネット情報 {報告・情報・連絡}

- ☆7月18日 放課後子供教室支援活動 南本通り小学校(予定)
- ☆7月26日 役員会開催(NPO 祭り、まなびっつフェスタ、ともえシニアカレッジについて検討)
- ☆7月29日 まなびっつフェスタ「てづくり楽器で音楽を楽しもう」菅原真希子会員
「おりがみで楽しくあそぼう」七尾佳し佑会員
- ☆8月02日 亀田老人大学自治会と「ともえシニアカレッジ」打合せ 小林会員
- ☆8月03日 3役会議(前項目について検討)
- ☆8月16日 例会研修会「函館山の歴史と観音様と花と」横内輝美 氏

☆広場の声【自らの感じ、気づいたこと(随筆・旅行記・文芸)】



暑中御見舞い申し上げます

平成二十四年

井ノ原 新

夏だ！海だ！太陽だ！

廻りがすべて広い海洋に囲まれたここ北海道は、三年目の夏である。

キラキラした太陽のもと、白い砂浜に大勢の老若男女家族連れが集い、海に泳ぎ遊び戯れる、と言う風景はここではあまり見たり聞いたりしたことがない。

それはまだ実情を知らないよそ者だからであろうか。

若い頃東京周辺に住んでいた者には、この季ともなれば江ノ島、鎌倉、逗子の海岸に思いが馳せる。

曾てその時代の湘南海岸は、都会人の別荘が点在した静かな一漁村であった。

それが昭和30年代後半からの高度経済成長がスタートするや、時を同じくしてリッチな別荘の若者やその連れ友達の遊び場となり、ヨットや波乗りモーターボートに水上スキー、ウクレレ、ダンス、ガールハント、マイカー等々の道具立てが揃っていったのであった。

裏面に続く

これらを背景とした小説『太陽の季節』が、当時一橋の学生であった石原慎太郎が、最年少記録（平成16年に19歳と20歳の二女性が受賞するまで48年間保持）で芥川賞に受賞、それを日活が映画化し大当たりをとった。
後の国民的大スター石原裕次郎が、世に出るきっかけを作った映画の舞台はまさにこの時代、この湘南の海辺であった。

そして続く小説『処刑の部屋』を大映が、『日蝕の夏』を東宝が、更にまた日活が『狂った果実』と、この慎太郎作品を次々と競作し、太陽族映画として話題にのぼっていったのである。

よき時代、真夏の湘南海岸の風景が臉に蘇る。

さてここで国民学校初等科音楽の中にあった『ウミ』を歌い、一幅の情景を誘うものとして。

	一. ウミハヒロイナ	二. ウミハ大ナミ	三. ウミニオフネヲ
『ウミ』	大キイナ	アオイナミ	ウカバシテ
(昭和16年発表)	ツキガノボルシ	ユレテドコマデ	イッテミタイナ
	日ガシズム	ツツクヤラ	ヨソノクニ

あのさした てのさんきに なのさぁ〜れ！